

日産アートアワード 2020 審査委員ステイトメント

2020.8.26

今回はとても特別な回でした。いま世界が置かれている状況、作家たちから提唱された重要なテーマ、また今日の危機的状況の中での表現者の重要性をみても、人間を人間たらしめるものが何かということ、かつてないほど強く示す回になったと思います。

グランプリに選ばれた潘を含め、ファイナリスト全員が実力ある顔ぶれだったため、審査は困難を極めました。

風間の「負の遺産から未来を考える」という視座は、タイムリーでウィットに富んでいました。また、今日でも木版画という伝統的な芸術技法が未だ表現方法としての強い有効性を持っていることをも示しました。また、三原がみせた科学と美学の出会いは、この世界の根源的に重要な「水」という存在の三態を視覚化し、物質界と生物学的世界を繋ぐ糸の重要性を我々に喚起させました。土屋の表現は、社会的な試練にさらされている時代に大いに必要とされる、ユーモアと共感の精神に繋がるものです。彼女は生物的、有機的な連想をもたらす独自の表現言語をつくりだす成熟した素晴らしい作家です。そして和田は、廃棄された家電から新たな価値を創造し、音楽と視覚芸術の双方に貢献しています。彼の活動は、今のような人々がお互いにつながりあうことが困難な時代に、持続可能な社会とは何かを考える上で非常に重要な活動を生み出しました。

この世界的なパンデミック下においてこのアワードを開催することは、「アーティストの活動が人間の生に資する大きな貢献ができる」という重要なメッセージにつながります。私たちは、世界的に生きることが困難なこの状況下においても、日産が本アワードを通じ、このような素晴らしい文化支援を継続ししていることに、賞賛を贈りたいと思います。

国際審査委員会 ※審査委員長以下、姓のアルファベット順、敬称略

南條史生
森美術館特別顧問（日本、東京）*審査委員長

ジャン・ド・ロワジー
エコール・デ・ボザール学長（フランス、パリ）

ウテ・メタ・パウアー
南洋理工大学シンガポール現代アートセンター（NTU CCA Singapore）創設者、
同大学美術・デザイン・メディア学部教授（シンガポール）

スハーニャ・ラフェル
M+美術館館長（香港）

ローレンス・リンダー
カリフォルニア大学バークレー美術館、パシフィック・フィルム・アーカイブ元館長兼チーフキュレーター
（米国、カリフォルニア）